

地学と切手



アルジェリアの地震被害者救援切手

P. S.

アルジェリアはアフリカ中北部にあり その南部は不毛のサハラ砂漠であり 北部はアトラス山脈を経て地中海に面している。この北アルジェリアはトルコ・ギリシア・イタリア・スペイン南部と共にアルプス山系に属しており 造山帯としての年代も若い。最近のプレートテクトニクスでいうならば アフリカプレートの最北端にあり 地中海をはさんで ユーラシアプレートと接しており プレート相互の確執の場となっている。

このような場所の地震としてはトルコやギリシア・イタリアの地震が数・規模ともに大きく 良く知られているが アルジェリア北部にも少なからぬ地震が起きており たびたび大きな被害を出してきた。

首都アルジェの近くの地震としては 1924年11月にアルジェの南西20kmのところを最大震度IX(改正メルカリ震度階、気象庁震度階のVIの烈震に相当) という大きな地震が記録されている。この地震の等震度線は東西に伸びたダ円形を示した。この方向はアルジェリア北部に分布する白亜紀~下部中新世に属する地層の構造トレンドと一致している。

下図は Rothé, J. P. による1790年から1949年の間に起きた地震の震央分布であるが 北部の Massif des Dehras にそ

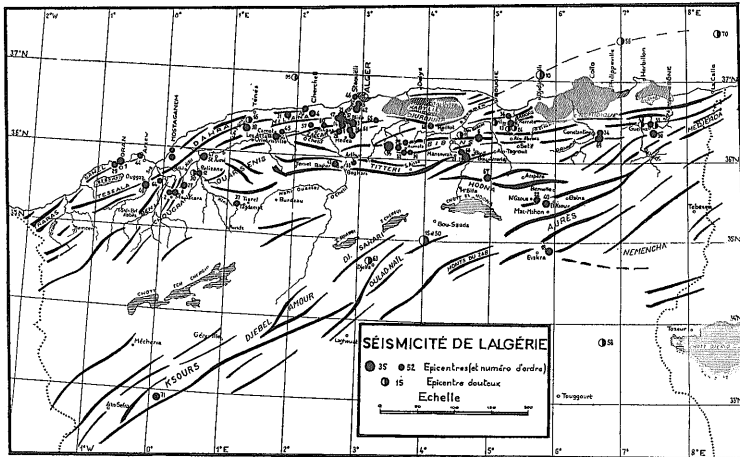
て数多くの地震が分布している。

切手の対象となった地震は 1954年9月9日に Orleanville 付近に起きた地震で I.S.S. の記録によれば発震時は01h04m 37sであり 震央は東経1.6° 北緯36.2° と記録されている。最大震度は改正メルカリ震度階でXないしXI(気象庁震度階のVII 激震)に達し 震度Xの範囲は500km²に及んだ。この地震で Massif des Dehras の南端にそって明瞭な地震断層と無数の地割れを生じた。被害は震源地のすぐそばの Orleanville に集中し 1,350人の人がガレキの下に埋もれ死亡し 1,000人を超える人が負傷した。

12fと15fの切手にはこの被害の様子が描かれ 18f 20f 25f 30fの切手には救急活動の様子が描かれており それぞれ4fないし10fの被害者救援のための寄付金がつけられている。

この地震以前にも Orleanville 周辺にはいくつかの地震があり 1934年9月の Carnot の地震では最大震度IXを記録している。さらに1926年12月にも Carnot 周辺にかなりの大きさの地震が報じられている。

「ここは地の果てアルジェリア」と歌われた国ではあるが地震の記録は下図に見るように 1790年からそろっており この国の地学に寄せる関心も高い。第二次世界大後始めての International Geologic Congress が開かれたのもこのアルジェリアである。そしてそれは Orleanville 地震の2年前 1952年であった。



アルジェリア北部の地震の震央分布図 (1790年—1949年)。震央を示す丸印の肩に書かれた数字は 地震の一連番号で Rothé, J. P. (1950) によって一つ一つの地震の詳細な記載がなされている。